

平成 30 年度清友幼稚園 学校評価 自己評価

作成：清友幼稚園

1. 園の教育目標

幼児の心身ともに健康な成長発達のために適切な環境を用意し、幼児期にふさわしい集団生活が展開されるよう配慮した幼児教育を目指している。教職員との信頼関係に支えられた活動、直接体験、友だちとのかかわりを通じて、個々の幼児が情操豊かで、良き生活習慣や人間関係に向かう意欲や態度を培う保育に取り組む。

本園では目指す教育目標として次の3項目を掲げる。

1. 心身共に健康で情操豊かな子どもに育む。
2. 誰とでも手をつなぎあっている子どもに育む。
3. 人の話がしっかり聞ける子どもに育む。

2. 平成 30 年度、重点的に取り組んだ目標・計画と自己評価

評 価	A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取組が不十分である
-----	---

目標・評価項目	取組み内容	取組み状況	評価
教育・保育内容の充実	今年度においても、本園の目指す方向を再確認しながら教育・保育を進めていく。昨年度取り組んできた内容を踏まえ、本園の望ましい体制を再構築しながら教育・保育の原点を見失わず、さらに新しい幼稚園教育要領も考慮して充実を図る。	園の目指す方向を共有すべく、教職員間で話合ってきた。常に子どもにとって最善の教育・保育を考える。来年度の認定こども園移行に伴い、預かり保育などの保育面での充実について話し合いを進めている。今後も教職員間の活発な意見交換を進めていく。	B
	教職員の信頼関係を築き、良好な人間関係の構築を大事にする。フリー教員と担任教員の学年団体制を強固にし、保育の援助指導面と管理面で連携を図る。要支援児についても、他機関との連携を強め、質の高い保育を目指していく。	学期ごとに全教員でカンファレンスを行った。 教育と管理部門との仕事の連携と合理化を図った。フリー教員を含めた学年団体制の援助指導が行われた。 専門の施設と連携を取り、要支援児其々について訪問支援など詳細な指導を受けることができた。	B

①指導内容の 充実	音楽・絵画・体育・英語に引き続き力を入れると共に、従来の教育課程に専門講師の指導計画をスムーズに組み込み、より質の高い教育内容を目指していく。一人一人の園児の特性に留意しつつ、新教育要領の幼児期の終わりまでに育てほしい姿を育てるようなカリキュラムの改良に努める。	専門講師による授業の成果は向上してきており、学期ごとの担任教員とのミーティングなどで連携を図り、日頃の保育とつながっていくよう努力した。他園の公開保育、新教育要領に関わるカリキュラムに関する研修等へ教員が参加し、その報告を終礼で行って、情報を共有した。	B
②保育環境の 充実	季節ごとに花の種蒔・植栽をおこない、自然教育と環境の充実を高める。園庭の樹木・遊具・外壁の整備と充実を図る。	保護者会園芸委員の協力を得て、四季折々の草花が園庭を賑わし、野菜の育つ様子を観察できた。園庭のニセアカシアが老朽化して危険であるのと、ブロック塀の耐震問題で改修計画を検討している。蔵書の充実にも努めた。	B
③預かり保育の 充実	来年の認定こども園移行に向けて、園児数が多い場合のプログラムの充実化を図る。 早朝・延長保育を実施する。	預り保育の園児数が多い場合、時間帯により、異年齢保育と学年別の保育を組み合わせるなど、プログラムを工夫して行った。 早朝・延長保育を実施し、保護者のニーズに答えた。	B
④食育に対する 取り組み	給食設定は行なわないため、保護者に対してお弁当づくりの意義（なぜお弁当が重要なのか）を伝え、食育に関する必要な情報提供を行なう。	園庭で自分たちが収穫した野菜を利用して薩摩汁会食などを行い、食物の旬や収穫の喜びを伝えた。クリスマス、お雛祭りなど、行事ごとの特色のあるお弁当を、保護者の協力を得て実施することで、日本の伝統や文化を伝えた。	B
⑤徒歩通園の 取り組み	バス通園をおこなわず、保護者には徒歩通園の意義を伝え、子どもたちの健康づくり・親子関係の育みを目指していく。	自転車通園が多く、徒歩通園は15%程度に留まっている。自動車での通園も増えているので、引き続き徒歩通園の意義を伝えていく。また、交通マナーを守って登園していただくよう繰り返しお手紙で啓発し、園児に対しては警察交通課と介助犬協会に来園してもらい、介助犬と一緒に交通安全教室を開催した。 毎年保護者会にも八尾市の交通安全教室に参加してもらい、今年は八尾市の交通キャラバンが来園した。	B

⑥教員の指導力の向上	園内外の研修と指導体制の充実を図り、教員の指導力向上を図る。	「発達障がいと支援」、「感染症予防」等の園内研修に積極的に取り組み、園外研修にも参加できるような体制を取っている。音楽の専門講師による、教員のピアノの演奏技術、合唱・合奏などのアレンジ方法の研修を行った。	B
⑦小学校との連携	卒園児が就学予定の地域小学校（主に6校）と連携を深め、小1プロブレムに対応していく。	就学前に地域小学校への引き継ぎを行った。幼保小連携研修に参加し、就園前に幼稚園で取り組むべき課題について理解を深めている。 地域の中学校・高校の職業体験を受け入れ、地域内施設連絡会にも参加して、連携を深めた。	B
教職員の育成・評価・能力開発を図る	定期的な個人面談・園内研修・自己評価を通じて、教職員の能力向上を促す。	学期ごとに個人面談を行い、悩みや課題を聴取している。 それぞれの個人行動目標シートに年度目標、学期目標を設定させ、具体的な行動、振り返りを記録させ、自己評価をさせることによって、能力、資質の向上を図った。 教育実習、インターンシップを積極的に受け入れ、後進の指導にあたることで、自園の教員の指導力も高めた。	B
園の施設、設備、遊具、行事などの総点検	施設、園庭、設備、遊具などの安全を、常時定期的に確認し、少しでも危険が予測される場合には速やかに改善していく。 照明のLED化を進める。	施設、園庭、遊具の専門業者による遊具の安全点検を行った。また、常時、子どもの安全面で問題のある箇所について報告させ、対応している。 ブロック塀の耐震性に問題があり、老朽化している園庭の樹木とともに改修を検討している。正門側のニセアカシア、一本橋（遊具）を撤去した。 園児トイレの照明のLED化を行った。	C

安全管理体制の整備、強化	火災、災害などの発生に際して園児、教職員をはじめ園内の安全を確保するために、通報、安全確保、避難、保護などの方法、手段のマニュアルを改善し徹底する。	学校安全委員を置き、最善の通報、安全確保、避難、保護などの方法、手段をマニュアルにし、さらに確認し合っている。災害時の様々な状況を想定して、毎月訓練と反省会を行っている。保護者参加のお迎え訓練などで、保護者の防災に対する意識の向上を図った。 消火器の使用、消火栓の放水訓練が実施できた。 非常持ち出し用の備品を整備した。 災害時用の水をローリングストックとして備蓄している。	A
	不審者、侵入者などから園児をどう守るか、防御・連携体制を強化する。	監視カメラ、警備員による不審者対策を行っている。園内で2回の訓練の他、八尾警察と不審者の侵入を想定した防犯訓練を昨年に引き続き実施し、対応が向上しているとの評価を得た。保護者証の携帯の徹底に努めた。	B
子育て支援の実施	キンダーカウンセラー事業として、専門家を招聘し、在園児であるなしに関わらず地域の子どもの発達に関する相談に引き続き応じていく。	毎月カウンセリングの日を設け、保護者だけでなく、教職員の相談にも応じてもらっている。	A
	未就園児の親子登園（さくらんぼ組）を実施し、集団生活の体験、子育ての情報提供や、参加者間の交流の場の提供を行う。	未就園児親子登園（さくらんぼ組）を実施し、毎回12組の親子が参加した。また音楽講師の指導で、リトミック教室を実施した。 毎月2回、在園時、卒園児、未就園児に図書室の絵本の貸し出しを行った。 保護者有志の協力を得て、毎月絵本の読み聞かせ会を実施した。	
教職員の勤務、給与について	従来の給与体系を一定維持しつつ、教職員の職務能力に応じた給与体系に改定する。	昨年に引き続き変形労働時間制を実施し、労働環境の改善と、時間外労働の削減に努めた。時間外労働については前年比約50%に削減することができた。	A

園に対する保護者の満足度把握、情報共有及び情報公開	私学の独自性に配慮しつつ子育て中の保護者が期待する幼稚園像を確認し、地域社会に求められる本園の将来ビジョンの策定は引き続き行なっていく。	保護者アンケートだけでなく保護者から直接、意見を聞き、保護者が期待する幼稚園像を把握しつつ、自治体と密に情報交換しながら、本園の将来ビジョンの策定を行っている。教育時間外の子育て支援として課外教室の充実を検討している。	B
	保護者と教育・保育状況の情報共有をしていく。	降園時には、保護者ひとりひとりに保育状況を伝えている。専門講師の授業の保育参観を実施した。行事などの情報の発信に、一斉メールを活用した。	B
	本園ウェブサイトにより、自己評価及び会計情報を公開していく。ホームページで園の様子や子育て情報の発信に努める。	本園の自己評価・会計情報をウェブサイト公開した。情報の発信は前半行えたが、後半人員の関係であまり行えず、今後方法などを改善して努めていく。	B

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果及び今後の課題

B	<p>全般的に概ね目標や計画は達成した。今後さらなる成果があがるよう、具体的な計画を立て、実行していきたい。絵本の読み聞かせ会・貸出しなども定着し、今後も図書の実践に努める。音楽講師のご好意でリトミック教室を実施した。英語の課外教室も好評である。保護者とのお迎え訓練を初めて実施し、保護者と教職員の意識の向上に努めた。要支援児についても、専門機関との連携が上手くいっている。今後も教職員の教育・保育の質、安全安心の意識の向上にさらに取り組んでいく。子育て支援の親子登園の回数を増やすことを検討しているが、教員の配置等の関係で難しい。学校安全では、6月の地震・9月の台風により、ブロック塀と樹木の安全性に問題があることがわかり、改修を検討している。さらにマニュアルの改善を進め、年間計画の作成に取り組みたい。</p>
---	---

4. 学校関係者評価委員会の意見

<p>自己評価の結果は、A段階3項目、B段階14項目、C段階1項目、総合的な評価はB段階であった。今年度も、3回開催した委員会の前後に園児たちの活動や保護者の様子などを見学する時間を設定していただいた。子どもたちが元気よく、いきいきと活動している場面を保護者とともに観察することができた。それらを踏まえて、全体的には、教育目標に掲げる子どもが育つ幼児教育がなされていると認識している。従って、委員会としては各評価を妥当であると判断した。</p> <p>次に、段階別に評価結果に対する意見を述べる。</p> <p>A段階の評価であった3項目について意見を述べる。『安全管理体制の整備、強化』については、大</p>

阪府北部地震などの影響もあり、お迎え訓練など新たな取組を含めると10回の避難訓練を実施しているとの事であった。引き続き、子どもたちに「命の大切さ」を伝えてほしい。『子育て支援の充実』については、キンダーカウンセラー事業も充実している。未就園児の親子登園も毎回定員が充足している。そのほか、図書の貸し出しや読み聞かせ会も行っているとの事であった。今後も地域の子育て支援センター的な役割を担ってほしい。また、『教職員の勤務、給与について』は、時間外労働時間が今年も前年比約50%に削減できたとの事であった。要因としては、行事等の準備を早期から取り組めるよう計画を立て、実行したという事であった。いわゆる「働き方改革」が指摘されている中で、教職員が協働して行事の実施等に取り組んでほしい。

C段階であった『園の施設、設備、遊具、行事などの総点検』については、ブロック塀の耐震性や園庭の老木の改修を計画しているとの事であった。保護者が安心して子どもを預けることができるとともに、園児たちが安全で安心して活動できるよう、できれば、早期に対応してほしいと願う。

B段階の項目であっては、新幼稚園教育要領への対応、それらを踏まえた教職員の資質・能力の向上などに今後も真摯に取り組んでいただくことを願っている。

最後に、『目標・評価項目』、『取組内容』において、子どもの言語活動に影響を与える図書活動の充実については、来年度以降、項目等に記載してはどうかという意見を申し添えます。

5. 財務状況

公認会計士による年3回の監査において、より安定した経営に向かう努力をしていること、財務状態は適正であることについて評価を受けている。

平成30年度清友幼稚園評価アンケート結果

先日は、幼稚園評価自己診断に関するアンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

今回、194名の保護者の皆様から回答を頂戴しました。保護者の皆様からの評価を真摯に受けとめ、園の経営や、指導法の見直しにつなげていきたいと考えております。幼稚園の教育方針や教育内容をご理解いただいた上で、その取組を評価していただき、その結果を公表し幼稚園を開くことで、さらなる教育充実を目指してまいります。今後とも教育活動推進のためにご協力いただきますよう、何卒よろしくお願いたします。

	そう思う おもね思う	やや思う	あまり思わない	そう思わない
1 子どもは幼稚園に喜んで通園している	174	12	6	
2 教育方針や教育内容・活動についてはよく分かる	135	54	4	
3 園は一人一人の子どもをよく理解し、個性に応じた適切な援助に努めている	121	67	5	
4 園は子どもの自主性や意欲を大切にしようと努めている	134	54	4	
5 園は子どもたちが基本的な生活習慣が身につくように努めている	164	30	0	
6 園は子どもたちが様々な遊びや活動を通して、集中して話を聞く態度を育てている	145	47	2	
7 園は子どもたちが自分の思いが表現できるように努めている	113	73	6	
8 園は子供たちが自然とのふれあい、直接体験を通して、命の大切さに気づくように育てている	114	66	14	0
9 園は子どもたちが友達の思いに気づき、互いに認め合えるように育てている	123	67	2	
10 園は集団でのきまりを守る態度を育てている	160	33	0	
11 園は小・中学校、高校、地域の人々との交流を通して人とかわる力を育てている	95	78	17	2
12 子どもは園内外の行事に喜んで参加している	147	43	2	
13 参観、懇談会、様々な行事で、子どもの様子や育ちがよくわかる	116	64	14	0
14 園内外は清掃が行き届き、衛生的な環境作りに努めている	158	35	0	
15 園は子育ての参考になる情報の提供に努めている	74	81	36	1
16 園はホームページなどで情報公開することに積極的である	89	74	29	1
17 園は安全管理に努め、危機管理意識向上に努めている	144	45	5	0
18 園は個人情報保護に努めている	138	47	6	1
19 園から出す手紙はよく分かる	137	54	1	2
20 子どものことを園や教員に相談しやすい	133	48	9	2
21 保護者会活動が活発で保護者どうしの交流の場になっている	67	62	52	1
22 園は担任だけでなく、園全体で子どもの保育に取り組もうと努めている	143	50	0	
23 地域の幼稚園として子育てで支援に努めている	87	77	29	0
24 家庭での基本的な生活習慣を育てることができた	124	64	6	0
25 家庭で子どもとコミュニケーションを図ることができた	134	58	2	

回答数 194

平成30年度清友幼稚園評価アンケート(教職員)結果

先日は、幼稚園評価自己診断に関するアンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

今回、28名の職員の皆様から回答を頂戴しました。職員の皆様からの評価を真摯に受けとめ、園の経営や、指導法の見直しにつなげていきたいと考えております。幼稚園の教育方針や教育内容をご理解いただいた上で、その取組を評価していただき、その結果を公表し幼稚園を開くことで、さらなる教育充実を目指してまいります。今後とも教育活動推進のためにご協力いただきますよう、何卒よろしくお願いたします。

	そう思う おおむね思う	やや思う	あまり思わない	そう思わない
1 子どもは幼稚園に喜んで通園している	19	9	0	0
2 教育方針や教育内容・活動についてはよく分かる	19	9	0	0
3 園は一人一人の子どもをよく理解し、個性に応じた適切な援助に努めている	21	7	0	0
4 園は子どもの自主性や意欲を大切にしようと努めている	17	11	0	0
5 園は子どもたちが基本的な生活習慣が身につくように努めている	26	2	0	0
6 園は子どもたちが様々な遊びや活動を通して、集中して話を聞く態度を育てている	26	2	0	0
7 園は子どもたちが自分の思いが表現できるように努めている	17	11	0	0
8 園は子供たちが自然とのふれあい、直接体験を通して、命の大切さに気づくように育てている	15	8	4	1
9 園は子どもたちが友達の思いに気づき、互いに認め合えるように育てている	23	5	0	0
10 園は集団でのきまりを守る態度を育てている	28	0	0	0
11 園は小・中学校、高校、地域の人々との交流を通して人とかかわる力を育てている	9	13	5	1
12 子どもは園内外の行事に喜んで参加している	22	6	0	0
13 参観、懇談会、様々な行事で、子どもの様子や育ちがよくわかる	19	8	0	0
14 園内外は清掃が行き届き、衛生的な環境作りに努めている	22	6	0	0
15 園は子育ての参考になる情報の提供に努めている	10	11	6	1
16 園はホームページなどで情報公開することに積極的である	11	11	6	0
17 園は安全管理に努め、危機管理意識向上に努めている	25	3	0	0
18 園は個人情報保護に努めている	21	7	0	0
19 園から出す手紙はよく分かる	16	10	1	0
20 子どものことを園や教員に相談しやすい	19	6	0	0
21 保護者会活動が活発で保護者どうしの交流の場になっている	12	11	4	0
22 園は担任だけでなく、園全体で子どもの保育に取り組もうと努めている	24	3	1	0
23 地域の幼稚園として子育て支援に努めている	11	11	5	0
24 家庭での基本的な生活習慣を育てることができた	14	8	1	1
25 家庭で子どもとコミュニケーションを図ることができた	14	8	2	0

回答数

28